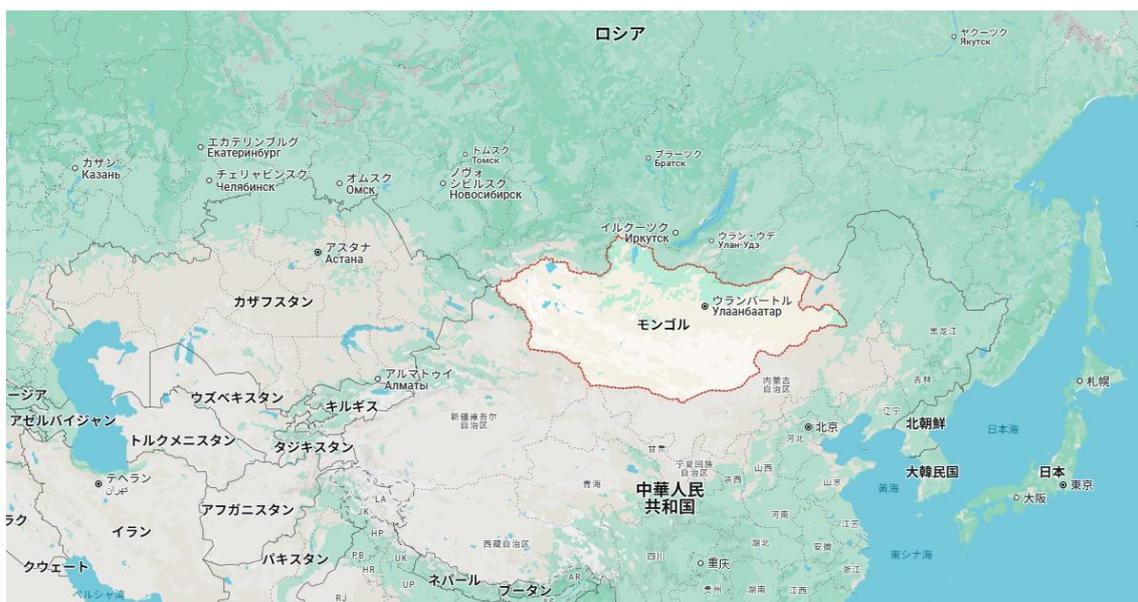


2024年11月ハイパーカレンダーレポート

11月18日～22日、国際協力機構（JICA）九州センターによるモンゴル・ビジネススタディーツアーに参加、ウランバートル市および周辺地域の企業等を訪問した。

【開催報告】大草原から未来へ～モンゴルビジネスの可能性を探るスタディーツアー～

チンギス・ハーンや相撲取りで有名なモンゴルではあるが、大草原とスーホーの白い馬、遊牧民の移動式住居であるゲルに思いを馳せる人も多いのではないだろうか。しかし、日本との関係や両国のビジネスについてはまったくもって無知であった。人口わずか約350万人（2023年モンゴル国家統計局）、日本の約4倍の国土はロシアと中国に挟まれている。東アジアに位置しているが、1990年まで社会主義国であったため、中央アジアと呼ばれるウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン及びトルクメニスタンの旧ソ連5か国と同じ経済圏と見られることもある。この地域の人口は約8千万人、その秘められたビジネスの可能性が顕在化してきているのだ。特に、モンゴルの豊富な鉱物資源と経済成長率や人口増加率は著しい。外国語は、英語よりも日本語という親日度合いも高い。



G20に見られるように、世界が多極化していくなかでの地政学的重要性が高まっている。国際政治を考察するにあたってその地理的条件を重視、地理的な位置関係による、政治的や軍事的、社会的な緊張の高まりが、その地域や世界経済に与える悪影響のことを指し、近年では投資判断に大きな影響を与える要因となっている。ではなぜ今、JICAがモンゴルに注力するのか？ビジネスだけではなく人間の安全保障という観点からも日本の果たす役割は大きく、過去の功績である[モンゴル・日本人材開発センター](#)や[新モンゴル学園](#)等の20数年に渡る活動があるからだ。経済は停滞しても未だ世界第三位である日本は、ロシアや中国とともにアジアの安定に貢献すべき時なのである。

（文責：青木栄二）